

都市交通機能を考えながら環境への負荷軽減に努め、 信頼され選んでいただける企業を目指します

企業トップインタビュー
第22回



株式会社 保工北海道

小室 邦彦(こむろ くにひこ)社長

<2017年6月1日賛助会員入会>



【会社概要】

- ・所在地:札幌市中央区北1条東14丁目1番地12
- ・設立:平成16年4月23日
- ・資本金:2,000万円
- ・従業員数:75名
- ・株主:日本リーテック株の100%子会社
- ・取引銀行:北洋銀行苗穂支店

- ・主要取引先:北海道(警察本部及び方面本部 総合振興局)、(株)ネクスコ・メンテナンス北海道、JR北海道、北海道開発局、札幌市他各市町村、交通安全施設関連工事会社、道路及び道路情報関連工事会社
- ・事業内容:交通信号機、道路標識の設計・施工・保守。道路標示、電気通信情報設備、鉄道信号設備の設計・施工。関連資材販売。

今回の会員企業トップインタビューは、株式会社 保工北海道の小室社長に伺いました。同社は道路関係の安全施設である道路標識工事、交通信号機工事、道路標示工事、電気通信設備工事を主体とした公共建設工事に携わる会社として、これまで培ってきた経験と技術力をもとに、品質管理の向上と工事の安全を最優先に公正かつ適切な経営を実現し、お客さまそして地域社会に役立つ企業をめざし取り組んでいます。

Q. 貴社の沿革をお聞かせください。

A. 当社は、旧保安工業(株)(現日本リーテック(株))の100%子会社として平成16年4月に発足しました。設立の経緯は、主な発注者である北海道の地元企業優先施策に対応するために、地元企業として交通安全施設の工事を重点に受注していくことを目的に設立しました。

設立2年目までは下請け工事主体でしたが、3年目から道警本部の見積もり指名に参加可能となり、札幌市の入札参加資格も取得でき、4年目で全道の地域で道警からの指名を頂けるようになったことにより、設立時の課題が一つ達成できました。5年目からは、高速道路保全業務の工事受託が定着し、道警と並んでもう一つの柱ができ、6年目には塗装会社の廃業に関わり塗装部門の事業譲渡を受けたことにより、北海道開発局および北海道からの塗装工事を新たに受注できたことや、7年目からはJR北海道から直接受注可能となり3本目の柱となったことで、受注額も安定的に伸び、現在に至っています。

Q. 貴社のコンセプトについてお聞かせください。

A. 企業理念は、「信頼され選んでいただける企業」を掲げ、安全の確保、信頼関係の構築としています。経営方針のトップに「安全」を掲げ、品質管理についても、ISO(9001:2008)MSA-QS-4174(平成26年10月28日取得)に基づき、お客様満足を高めることによって品質の向上が図られるものと考えており、お客様からの信頼の獲得には「安全と品質の向上」は欠かせない重要な方針です。

Q. 貴社の社風、社員気質などお聞かせください。

A. 社風を意識したことはありませんが、社員気質としては、安全を最優先に仕事に真面目に取り組んでくれています。また、難しく、新しい技術にも物怖じしない、業界団体の催しなどにも積極的に参加してくれています。

Q. 採用環境が厳しいとの報道もありますが、貴社社員の採用状況をお聞かせください。

A. 会社設立以降、保安工業からの出向で対応してきたので、9年ほど採用はしてきませんでした。年齢構成の歪も考慮し6年くらい前から採用しているものの厳しい状況にあります。募集に当たっては、親会社の日本リーテック(株)にも協力得て、毎年2名程度採用してきていますが、20~30代が少ないので、技術継承の観点から中途採用も実施し、世代間バランスを取るようにはしています。



保工北海道本社社屋(上) および事務室(下)

Q. 貴社の人材育成方針および当本部への派遣経過をお聞かせください。

A. 人材育成は、親会社の方針を踏まえ、日本リーテックの研修施設に技術的な研修や中堅のメニューに参加させています。他方、保安工業時代から生産性本部においても階層別を中心とした公開研修を実施しているのは承知していたので、平成25年に管理者研修に派遣して以来毎年数名参加して、節目の階層に合わせて派遣するようにしており、2年前から賛助会員としてお世話になっています。実は、私も10年ほど前に日本生産性本部の洋上研修「生産性の船」に参加した経験があります。

Q. 働き方改革が話題となっています。貴社の取り組みをお聞かせください。

A. 政府からの方針が出されて以降、親会社の指導もあり、同時期から取り組んでいます。時間外の削減について管理職を中心にそのグループ毎で話し合ってもらい、管理の仕方も変えて取り組んだ結果、全体として2割程度削減できました。また、年休5日取得を目標として取り組んでいますが、業務上、土日の仕事が多く代休を優先するので、業務やお客様との関係などから平日に休暇を取得しづらい雰囲気がありましたが、業務のサイクルやスケジュールなど調整し、代休に休暇を合わせて取得してもらうよう職場単位で調整してもらい、これも90%程度取得が進んでいます。

Q. 女性活躍などの取り組みについてお聞かせください。

A. 技術職として採用した社員が1名在籍しており、今はCADの仕事を中心に書類作成、打ち合わせなどを行っています。2級土木施工管理技士資格も取得していますし、本人の希望もあるので現場に出て働いてもらいたのですが、工事期間や設備面も含めて環境が整っていないというのが実態です。

Q. 小室社長のご就任（入社）の経緯をお聞かせください。

A. 昭和52年に当時の保安工業㈱北海道支店に採用され、当時国鉄の信号の工事をする部署に配属になり、その後、交通信号機の部署に移り仕事をした後、旭川営業所に異動になり、所長として現場に出ることは少なかったもののすべての部門（入札や営業など）の仕事に従事させてもらいました。その後、東北支店に異動になり、青森に2年、新幹線の工事の現場代理人を担当しておりました。工事が終わった段階で所属が、当時日本リーテックの鉄道本部の所属のまま保工北海道に出向ということで北海道に赴任し、鉄道の部署で勤務して、5年前に取締役役に昇任、その後1年で社長に就任し、4年目になります。

Q. 保安工業の仕事は、鉄道がメインだったということでしょうか。

A. 本体は鉄道がメインで以前は北海道も鉄道がメインでしたが、仕事量との係わりで道路の保安業務が中心になり、現在は高速道路の仕事も受託でき、平成23年からは、鉄道の仕事も直接受けることが出来たことにより、経営の安定に大きく寄与しています。

Q. 小室社長の特に印象に残る仕事をお聞かせください。

A. 今から30年余り前になりますが、青函トンネルの信号の工事を担当している時に、本工事前の試験工事の際、トンネル内は新幹線と同じ仕様で信号機がないため、レールに数種類の周波数の電気を流して、列車の速度が制御できるかという試験を実施したことが印象深いです。また、トンネルの奥で発破が行われている時期に、新技術の開発に携わったことがあって辛いこともありましたが、印象深く記憶に残っています。

Q. 貴社の社会貢献活動等について、お聞かせください。

A. 自分たちの業務に係って貢献できることはないかということで、災害時の復旧に関わった際に表彰をいただいた事例もありますが、開発局や道庁など自治体の工事を受託した際、工事実施地域の近郊において自治体の所管する施設などで周辺の環境整備、草刈り、清掃等を実施しています。その事によって、地域の皆さまのお役に立てればという思いから、保工北海道創立以前から取り組んできています。

Q. 創立15周年を迎え、今後の事業展開についてお考えをお聞かせください。

A. 現在いただいている仕事は、保安工業時代のお客様からのものもあるため、保工北海道として、現在の業務範囲の基盤をしっかりと固めた上で、もう一つコアとなる事業について検討を進めているところですが、具体的に方向性が定まっているものはありません。時代変化が速いなかで5年10年先に具現化できるものを考えているところです。



道路標識・情報板